

今月のエキゾチック症例(第20回 2026年1月)

リチャードソンジリスのアポクリン腺病変

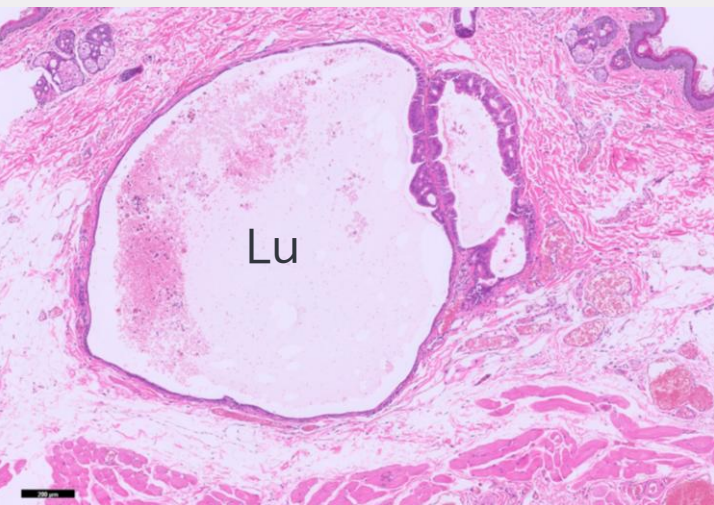


図 1. アポクリン嚢胞の組織写真、低倍像。真皮～皮下組織に軽度過形成性のアポクリン腺小葉があり、左側が非腫瘍性に嚢胞状に拡張しています(Lu)。

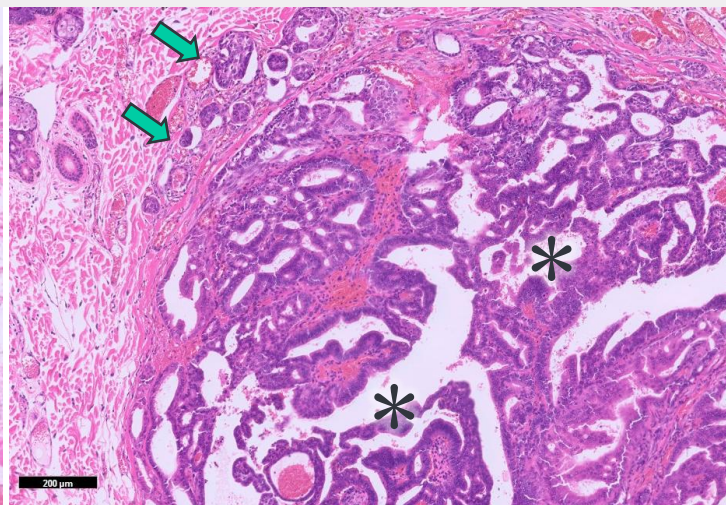


図 2. アポクリン腺癌、管状乳頭状型の組織写真、中倍像。腫瘍細胞は管状・乳頭状に増殖しており(*)、辺縁の一部で周囲に浸潤しています(矢印)。

リチャードソンジリス(以下、ジリス)は外皮臭腺を口周囲～頬(口部臭腺)、頸部～背部(背部腺)、肛門領域に持ち、口部と背部の臭腺はアポクリン腺で構成され、マーキングに使われます。齧歯類では毛包付属器のアポクリン汗腺を欠きます。

ジリスではアポクリン腺病変によく遭遇します。ジリス31頭のアポクリン腺病変の研究では、雄が74%、雌が26%で、62%が頸部～背部皮膚に、29%が口周囲～頬に発生しています。84%がアポクリン腺癌、10%がアポクリン腺腫、5%がアポクリン嚢胞(図1)でした。腺癌の組織型には、嚢胞性乳頭状型、管状乳頭状型(図2)、充実型(図3)、微小乳頭浸潤型があります。この組織型は、腫瘍径、核異型、切除の完全性、脈管侵襲、PAS反応陽性率と相関が見られたそうです。

1例報告の口部アポクリン腺癌は局所再発とリンパ節転移をし、31頭の研究でも8頭(26%)が局所再発し、剖検の1頭では肺転移が見られたそうです。ただし、追跡期間が限られ、組織型や核異型などが再発・転移に関連するかは不明です。

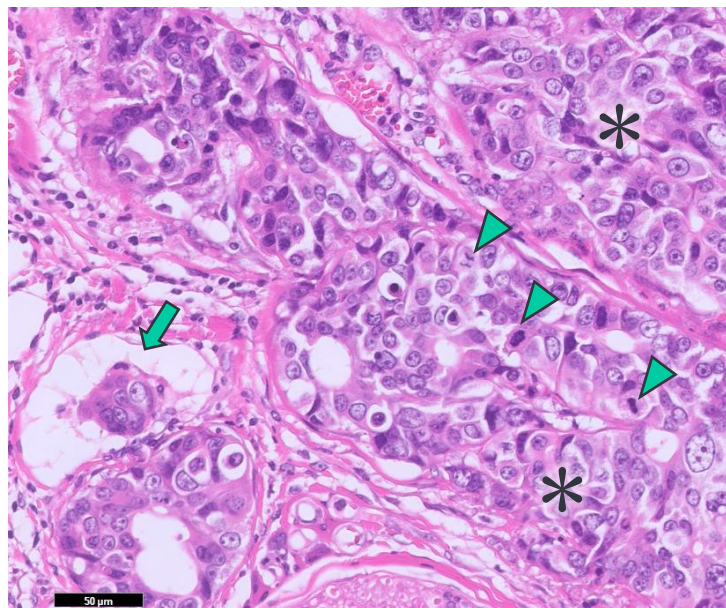


図 3. アポクリン腺癌、充実型の組織写真、高倍像。腫瘍細胞は充実胞巣状に増殖しています(*)。腫瘍細胞は核の大小不同や核小体の明瞭化など、強い異型性を示しており、有糸分裂像(矢頭)も頻繁です。リンパ管侵襲像(矢印)も見られます。

執筆者からの一言

無断での転用/転載は禁止します。

昔はプレーリードッグが人気でしたが、輸入禁止になってからはほとんど見かけなくなり、今やリチャードソンジリスに人気が取って代わりましたね。プレーリーよりミニサイズで、小型が人気の日本では納得です。プレーリーに比べるとジリスの疾患情報は不足していますが、それでもここ5年で私個人が遭遇したジリスの病理組織検査では約7割と大部分がアポクリン腺病変と、非常に多い疾患であることが分かります。

参考文献

1. Eguchi A et al., J Toxicol Pathol. 2018; 31(3): 189-193.
2. Okumura N et al., Vet Pathol. 2023; 60(2): 276-281.



執筆: 中嶋 朋美
DVM, PhD, DJCVP